

産官学連携推進 News Letter

Vol. 5

「けいはんな万博2025スタートアップフェス」にてワークショップを開催 **New!** 情報デザイン学部 伊藤教授・藤本講師

2025年7月25日(金)、けいはんなプラザにて、「けいはんな万博2025スタートアップフェス」が開催されました。本学はけいはんな学研都市と連携し、情報デザイン学部の伊藤教授と藤本講師が体験型ワークショップと展示デモを実施しました。伊藤教授は「AI搭載ミニ四駆」の展示・デモを、藤本講師は「デジタルファブリケーション技術：3Dプリンタによるオリジナルフィギュア作成、オープンソースのゲーム機作成体験」を紹介しました。学術的視点とエンターテインメント性を融合し、来場した学生や若い世代にものづくり技術の魅力を伝えるとともに、地域連携の強化と次世代人材育成に貢献しました。



「大学見本市～イノベーション・ジャパン」に出展 システム工学部 浅田特任講師

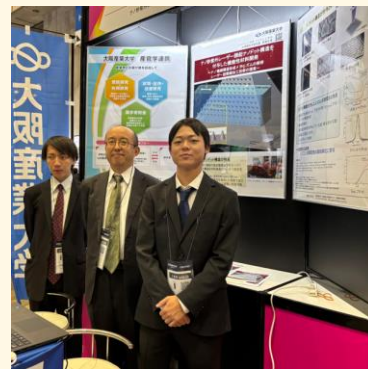
2025年8月21日(木)・22日(金)の2日間、東京ビッグサイトにて「大学見本市2025～イノベーション・ジャパン」が開催されました。本学は、システム工学部 浅田特任講師による「ハンドル駆動でADLを支える新型車椅子」を出展し、使用者の身体条件や生活環境に適応し、日常生活動作の維持・向上を可能にする新しい車椅子の試作システムを紹介しました。当日は、製造業、医療・福祉機器メーカー、医療関係者など幅広い分野から150名を超える方々にご来場いただきました。実際に試乗いただくことで、従来の車椅子との違いを体感していただき、課題や改善点についても貴重なご意見を伺うことができました。



活動紹介

「CEATEC」に初出展 **New!** システム工学部 草場教授

2025年10月14日(火)～17日(金)、幕張メッセにて、「CEATEC2025」が開催されました。本学は、システム工学部の草場教授による研究「ナノ秒紫外レーザー照射で高密度ナノドット構造形成に成功！」を初出展し、ナノ秒紫外レーザーによる高密度ナノドット形成技術とそれを応用した高効率シリコン太陽電池への展開について紹介しました。会期中は、製造業(電気・電子・レーザ・モビリティ・情報・通信、IT、ソフトウェア、機械、設備、材料・化学)をはじめ、広告/サービス業、公的機関、官公庁、大学/研究機関など、600名を超える方々に本学ブースへお越しいただき、活発な質疑応答や意見交換が行われました。研究成果の社会実装に向けた手応えを得る、有意義な出展となりました。



「関西私立大学知的財産連絡協議会」定例会を行いました (9月25日)

本協議会は、関西地域の私立大学11校が参加し、知的財産や産官学連携に関する情報交換と知的財産管理体制の強化を目的とする組織です。9月25日(金)に、京都橘大学で定例会が開催され、本学からは産業研究所事務室の担当者3名と産学連携コーディネータ1名が参加しました。

今回は、各大学が抱える課題について事前にヒアリング項目を設定し、回答をもとに意見交換会を実施。知財戦略や施策に関する活発な議論が行われ、有意義な交流の場となりました。今後も、大学間の連携を通じて知見を共有し、知的財産制度・技術移転・契約条件などに関する課題解決を進めていく予定です。

<展示会>研究シーズの展開

2025年11月	テクノメッセ東大阪へのシーズ展示
2025年12月	MOBIO合同シーズ発表会でのシーズ発表
2026年2月	JST新技術説明会での研究成果発表
通年	研究室/ラボ訪問・ヒアリング

他に、産業局や商工会議所、自治体、金融機関と連携し、産官学連携やビジネスマッチングの機会も随時提供しています。

トピックス

今後の予定

<お問い合わせ・相談>
社会連携・研究推進センター 産業研究所事務室
sangaku@cnt.osaka-sandai.ac.jp

異分野交流から生まれる新しい研究の可能性 — オープン・イノベーションが拓く新たな研究連携のかたち —

「オープン・イノベーション」は、2003年にカリフォルニア大学バークレー校のヘンリー・チェスブロウ博士が提唱した、他社の技術やアイデアを活用して新たな価値を生み出す考え方です。国内でも、2017年の文部科学省『科学技術白書』で、大学や研究機関がその中核を担う存在として位置付けられました。

近年は、産官学が連携して技術革新と価値創造の動きが一層広がっています。本学でも、研究分野の垣根を超えた研究者間の交流を促し、知識・設備・視点を共有しながら新しいテーマの創出に取り組んでいます。その実例として、前号で今年3月に実施されたシステム工学部・草場教授と建築・環境デザイン学部・高浪准教授による研究交流を紹介しました。本企画では、この交流から生まれた新たな展開を対談形式でお届けします。

【研究交流のきっかけ】— 交流が始まったきっかけを教えてください。

草場教授：私の研究室では、ナノ秒紫外レーザーを使って誘起ナノドット構造を生成する研究を進めていました。ただ、その成果をどの分野に応用できるのかを模索していました。そんな中、社会的課題となっているPFAS（有機フッ素化合物）に適用できるのではないかと考えました。そこで、環境負荷物質の分析や評価をされている高浪先生の視点を取り入れたいと思ったのです。

高浪准教授：私自身の研究テーマもPFASの分析や評価に関わるものです。常々、草場先生のレーザー技術との接点や新たなアプローチが得られると感じていました。



【交流で得られた気づき】— 実際に意見交換してみて、どんな発見がありましたか。

草場教授：PFASの問題は社会的にも非常に大きな課題です。自分のレーザー技術が環境分野に役立つかもしれない、と検討できたのは大きな刺激になりました。

高浪准教授：環境系の研究者だけでは思いつかない発想をいただき、新しい視点を得ることができました。



<システム工学部 草場教授>

【研究設備の「開放」がもたらすもの】— 互いの研究室を訪問し、実験装置も見学されたそうですね。メリットについてお聞かせください。

草場教授：研究設備を互いに開放することで、無駄を省いて研究を効率的に進めることができます。新しいテーマ探索にも直結する実感があります。

高浪准教授：普段触れることのない機器を知ることによって自分の研究の可能性も広がる。リソースを共有する意義を強く感じました。



<建築・環境デザイン学部 高浪准教授>

【今後の展望】— 今後の研究交流にどんな展望をお持ちですか。

草場教授：工学的な技術を環境課題にもっと応用していきたいと考えています。社会課題の解決に貢献できる形に発展させたいですね。

高浪准教授：今回のような交流をきっかけに、他学部の先生方とも積極的に連携を広げたいです。異分野の視点が研究をさらに前進させると思います。



【コーディネータより】

研究の現場において、「知」と「設備」の開放は新たな研究テーマやイノベーションを生み出す原動力となります。本学のオープン・イノベーションの取り組みは、研究者どうしの出会いから育まれます。今後も「出会い→交流→共創→未来」という流れを自然なものにし、イノベーションを生み出す環境づくりを推進していきたいと考えています。